

2020年度後期 講義概要

授業科目名	少人数能動学習
主担当教員名	伊藤俊之 向所賢一
配当学年 等	第4学年
学習目標	<p>充実した診療参加型臨床実習を行うために必要な臨床推論能力を身につける。</p> <p>【課題探究・解決と学習の在り方】</p> <p>(1) 課題探求・解決能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要な課題を自ら発見できる。 2) 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。 3) 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。 4) 課題の解決にあたって、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。 5) 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。 <p>(2) 学修の在り方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 2) 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。 3) 実験・実習の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表できる。 4) 後輩等への適切な指導が実践できる。 5) 各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究等）に参加する。 <p>(3) 生涯学習への準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生涯学習の重要性を説明できる。 2) 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。 <p>【問題志向型システムと臨床診断推論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的診療知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。 2) 得られた情報をもとに、その症例の問題点を抽出できる。 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。 4) 主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。 <p>【科学的根拠に基づいた医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床疫学的指標（感度・特異度、尤度比等）を考慮して、必要十分な検査を挙げ、症例における検査結果の臨床的意義を解釈できる。 2) 科学的根拠に基づいた治療法を述べることができる。 <p>【医療の質と安全性の管理】</p> <p>(1) 安全性の確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。 2) 医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。 3) 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。 4) 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）、やっちはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。 5) 医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。 6) 医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度）を概説できる。 7) 医療関連感染症の原因及び回避する方法（院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム（infection control team <ICT>）、感染対策マニュアル等）を概説できる。 8) 真摯に疑義に応じることができる。 <p>(2) 医療上の事故等への対処と予防</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。 2) 医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。 3) 医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。 4) 基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセイフ・フールプルーフの考え方等）を概説し、指導医の指導の下に実践できる。 <p>この順番に従って講義するものではないが、全体で「医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）」の到達目標を達成できるように講義を行う。</p>
授業概要	<p>医師には、自ら問題を発見し、その解決方法を見出す能力、生涯にわたって自ら学び、その成果を患者に還元していく能力が求められる。そういった能力の育成を図るため、具体的事例を用い、グループ討論や個人学習、チューターとよばれる教員による学習援助などの問題発見解決型学習を通じて、自己開発能力の育成を図る少人数能動学習を行う。このような少人数能動学習は、一般的には「Problem-Based Learning; PBL」と呼ばれている。例年、上記のような少人数能動学習を行ってきたが、今年度は、コロナ感染拡大状況であり、グループ討論は行わない。具体的事例から学生が自己学習する形式とする。</p>

授業内容					
年月日(曜)	時限	担当教員	内容	課題 有・無	授業形式 (原則、対面。)
10月14日	5限	大塩 恭彦	「胸痛」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
10月20日	5限	藤田 征弘	「全身の倦怠感」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
10月21日	5限	大塩 恭彦	「胸痛」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
10月27日	3・4限	藤田 征弘	「全身の倦怠感」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
11月2日	3限	高橋 憲一郎	「腹痛」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月4日	4限	高橋 憲一郎	「腹痛」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
11月9日	1限	北川 誠大	「腰痛」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月10日	3限	北川 誠大	「腰痛」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
11月11日	3限	高木 健治	「頭痛」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月11日	4限	森田 幸代	「緩和ケア」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月12日	2限	森田 幸代	「緩和ケア」2日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月12日	4限	高木 健治	「頭痛」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
11月13日	2限	森田 幸代	「緩和ケア」3日目	有(提出)	(原則、対面)
11月13日	5限	底田 辰之	「発熱」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月19日	5限	底田 辰之	「発熱」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
11月24日	5限	清水 智治	「ヒヤリハット」あるいは「認知症」1日目	有(提出無し)	(原則、対面)
11月26日	5限	清水 智治	「ヒヤリハット」あるいは「認知症」2日目, 3日目	有(提出)	(原則、対面)
授業形式・ 視聴覚機器の利用	<p>・8症候(「胸痛」、「全身の倦怠感」、「腹痛」、「腰痛」、「頭痛」、「緩和ケア」、「発熱」、「ヒヤリハット」あるいは「認知症」)について学ぶ。</p> <p>・グループ分けは行わず、具体的事例は講義室で提示され、学生が自己学習する時間を設ける。その後、同じく講義室にて、画像や検査データ、臨床経過などについて担当教員から解説をしていただく形式とする。</p>				
評価方法	<p>各症候に対して、自己学習した内容をポートフォリオ(症例によっては所定の様式があるので確認が必要)にまとめ、WebClassで提出する。提出期限は、各症候の講義最終日から2週間とする。</p>				
教科書・ 参考文献	<p>内科診断学、医学書院 内科診断学、南江堂 誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか、医学書院 カンファレンスで学ぶ 臨床推論の技術、日経BP社 The 臨床推論 研修医よ 診断のプロをめざそう!、南山堂 異常値の出るメカニズム 第7版、医学書院 臨床検査法提要(改訂第35版)、金原出版</p>				
学生への メッセージ	<p>基本的な臨床推論能力を身につけよう。</p>				